ICT 機器を活用した、情報保障の工夫について

岸和田市立大宮小学校

本校の難聴学級では、主に国語・算数・自立活動の授業を行っています。理科・社会・家庭科などその他の教科は通常学級で学習しており、学級担任や専科の教員が授業を行います。そのため、通常学級での授業においては、板書を見たり、授業者の口元を読んだり、ロジャーマイクを使用したりすることで情報を得ている児童がほとんどです。

しかし、高学年になると学習内容が高度になり、難しい言葉も増えることで、理解しにくくなる実態があります。ロジャーマイクを使用していない児童にとっては、授業者がマスクを付けているために、より理解しづらくなります。さらに、学年が上がるにつれて、授業中にグループでの話し合いをする場面が増えていくため、このような場面での学習の難しさも見受けられます。

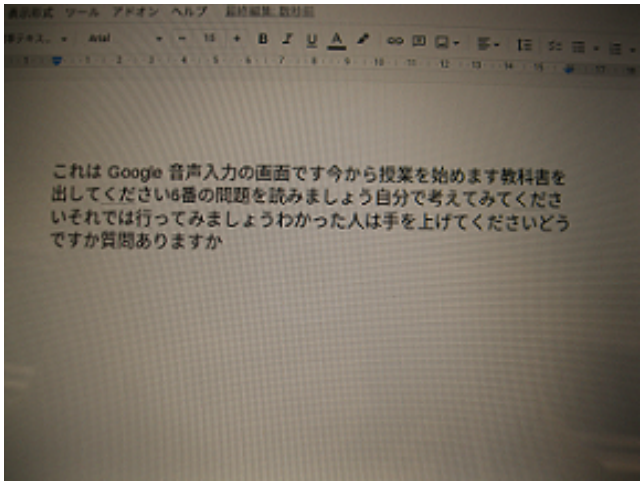
そこで、昨年度より導入されたタブレット端末（chromebook）等を用いて、通常学級での情報保障に取り組むこととしました。

① 「UD トーク」および「Google 音声入力」アプリを用いた情報保障

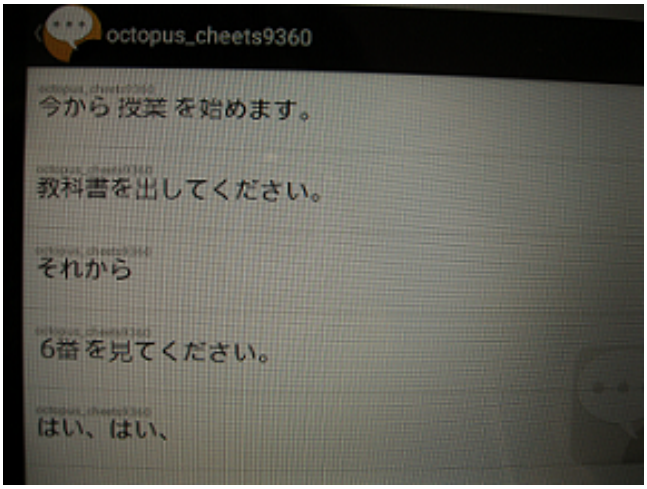
まず、chromebook に「UD トーク」アプリをインストールしました。インストールにあたっては、岸和田市教育委員会の指導主事と相談して設定していただきました。また、インストールするだけで使うことはできるのですが、個人情報保護と使える機能を増やす観点から、「アプリ導入プログラム」に申し込み、学校としてのアカウントを取得しました。

紐を通し、授業者が首からかけて使います

入力マイクは、岸和田市教育委員会より貸与していただいた、「AmiVoice　Front　WT０１」を使用しました。端末に Bluetooth で接続し、UD トークを開いた状態で授業者に付けてもらうことで、授業者の発言内容が文字化されます。これにより、授業内容が大幅に理解しやすくなりました。



Google ドキュメントで音声入力を使用



UD トークを使用

UD トークを導入する前は、Google ドキュメントの画面を開き、Google 音声入力をオンにして、同様に文字化していました。これでもある程度の情報は得られますが、句読点や改行がなく読みにくいことと、リアルタイムでふりがなを付けることができないために、漢字の苦手な児童には活用しにくいというデメリットがありました。その点、UD トークは文のまとまりごとに改行されることや、ひらがな表示やふりがな有りの表示を選択できることで、児童にとってより分かりやすいものとなっています。

② 「ポケトーク」を使った話し合い活動

SOURCENEXT 社の「AI ボイス筆談機　ポケトーク mimi」を、NPO 法人 Silent Voice 様より貸与していただき、試験的に活用しています。これは、操作が簡単にできることと、他の機器に接続する必要がないため、グループでの話し合い活動の際に気軽に使うことができます。また、タブレットより軽量なので、校外での活動にも活用しやすいことも利点です。

教室での話し合い活動の場合は、タブレットから UD トークを開き、AmiVoice マイクを話し合うグループの真ん中に置くことで、友達の声を拾って表示させることもできます。

近い距離にいる人の声を拾って表示します